

## 1 単元のデザイン

## 【本単元の目標】

<知識及び技能> 投書の特徴及び文章の組立てや論の進め方など構成や展開について理解することができる。 【文や文章 カ】  
<思考力、判断力、表現力等> 理由づけの仕方や根拠の挙げ方などについて叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えてそれぞれの書き手の説得の工夫を読み取ることができる。 【読むこと ア 構造と内容の把握】  
<主体的に学習に取り組む態度> 自分の考えを投書としてまとめたいという思いをもち、既存の知識や理解した内容と結び付けながら説得の工夫について読み取ったことや友だちの助言をもとに自分の主張をまとめようとしている。

## 【単元観】

本単元では、新聞の投書の特徴や書き方について収集した情報をもとに、教材文の四つの投書を構成や理由付けの仕方、根拠の挙げ方について比較したり関係付けたりしながら読み比べることで、テーマ・相手・目的等の状況によってその説得の工夫が効果的かを考え、理由や根拠を明確にして自分の意見を書く力を育てることをねらいとしている。

本教材は、「スポーツをすることの目的」について書かれた一つの投書に寄せられた三つの投書で構成されている。同じ文章構成で書かれた四つの投書には「経験を述べる」「具体的な数値を入れる」等の説得の工夫が示されており、自分で投書を書く際にも活用することができる。説得の工夫について読み取った内容を生かしながら自分の考えが読み手に伝わるように構成を工夫し、理由や根拠を明確にして投書を書くことにつながる教材として適している。

## 【児童観】

本学級の児童は同系統の前単元である「イースター島にはなぜ森林はないのか」で、事実と意見との関係に注意して、筆者の考えを読み取り、文章に対し自分の考えを持ったりすることを学び、単元末テストは90%の定着率であった。本単元前に行った児童アンケートでは「事実と意見との関係に注意して筆者の考えを読み取る」、「文章に対し、自分の考えをもつ」ことについては、ともに89.2%の児童が肯定的に捉えている。

新聞を読んでいる児童は42.8%であり、新聞の投書について知っているという児童は28.5%であった。投書という言葉は初めて知った児童もいたが、本アンケートを通じて新聞を読むことや投書について興味・関心を持つことができている。

昨年度1月に実施した廿日市市学力定着状況調査の国語科の正答率は79.7%であった。説明文の内容を読み取ることについては74.5%であり、市平均を6ポイント程度上回っている。

## 【つまずきの要因】

説明文においては、段落相互の関係に着目しながら読むことに課題があると捉えている。これは、第3学年及び第4学年の指導事項である。支援対象児童は、書き手の考えがどのような理由によって説明されているのか、また、どのような事例によって具体化されているのかなどについて叙述をもとに正確に捉えることに困難を要する。理由を問われた際には、文章に書いてある「～からです。」等の文末表現を見付けるという手法しかできなかつたのではないかと分析した。文章によっては「～からです。」という表現が必ずしもあるとは限らない。そのような場合には、理由を見付けることができていることもわかった。

そこで、第1学年及び第2学年の指導事項である「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること」についての確認を行った。その結果、時間の経過や事柄の作り方の手順など、はじめ・中・おわりの文章構成をもとに捉えたり、まず・次に・最後にといった文章表現上の説明の順序をおさえたりすることができることがわかった。

## 【支援対象となる児童の実態】

音読については、文章の構成や内容を理解して音声化することに課題があるが、声の大きさや抑揚、速さや間の取り方といった音読の技能を生かしながら読むことはできる。

読書については科学読本サバイバルシリーズを好んで読んでいる。活字だけの読み物にはあまり親しんでいない。

読み取ったことをもとに自分の考えを表現することについては自力では難しい上に時間を要する。

読むことについては、説明的な文章を読んで、段落分けをすることはできるが、文章全体の構成を正確に捉えるというところには至らない。

今年度の単元末テストの結果は4月に行った物語文では89%、5月の説明文では85%の定着率であった。問われていることについて文章に書かれていることを読み、正答となる箇所を抜き出すことはできているが、問題文から一言一句正しく抜き出すことが難しい。「海鳥」→「海鳥」、「うばい合う」→「うばいはう」、「敬う」→「敬まう」、「さっきゅう」→「さっきう」等の誤表記が見られる。見えにくさという視覚的な課題があるのか、不注意によるものなのか、分析中である。

## 【具体的な手立て】

書き手の考えとそれを支える理由について叙述をもとに正確に捉えさせるために構成図を活用する。ノートやタブレットに文章の構成をまとめさせ、文章構成とそれぞれの書き手の意見や主張、その理由や根拠を捉えることができるようにする。

教材文は新聞記事の様式で書かれている。視覚的な困難さも考えられるので、段組を解いたものを用意する。

音読練習の際に、教科書への書き込みが不要な情報として残る場合がある。そのため、教科書への書き込みは行わず、教科書の写真を撮影しタブレット上で書き込みを行わせる。タブレットに書き込んだ画像は印刷してノートに貼るようにし、学びが広がるようにする。

## 【放課後等の取組】

段落相互の関係に着目しながら、各段落の内容の大体を捉えること、また叙述に即して読むことにつながる発問をもとに考えさせ、自分の言葉で表現させる機会を積極的に取り入れる。

## 【通級での指導】

毎時間ビジョントレーニングを行い、視覚的困難さにアプローチし、読み間違いを少なくさせる。

意見を述べるときに使う言葉（～こそ、確かに、～でも、…）などを使ってお話をつくる活動をゲーム感覚で取り入れる。

## 【指導観】

本単元は、学級活動や総合的な学習の時間と関連付け、小中連携の視点を取り入れて学びをデザインした。中国新聞の「ヤングスポット」については単元前にふれさせ、中学生が書いた「自主的な勉強」、「学校のリーダー」をテーマとして書いた投書を紹介し、イメージをつかませる。第一次の「課題の設定」の場面では、投書のもつ魅力や効力を伝えるとともに、学習活動の内容やゴールイメージ、付けたい力について共有する。「情報の収集」の場面では、教材文を読み比べ、書き手が読み手を説得するために用いた工夫や文章構成が同じであることに気付かせる。「整理・分析」の場面では、四つの投書を読み比べ、読み手を説得するために用いる理由付けや根拠の挙げ方の工夫のそれぞれのよさや課題を表にまとめながら考えさせる。「まとめ、振り返り」の場面では、自分や友だちの読みを比較することを通してそれぞれの良さを共有し、第二次の学習につなぐ。

第二次の「新たな課題の設定、情報の収集」の場面では、卒業生である中学2年生の生徒に単元前にふれた二つのテーマについて語ってもらい、自己の家庭学習や学校生活のあり方を振り返らせる。二つのどちらかのテーマをもとに、第一次で読み取った説得の工夫と自分の投書の内容、そして自分自身をつなぎ、理由や根拠としてどのような事実や資料が必要かを考え、説得の工夫を取り入れて自分の考えをまとめ、下書きを書く。「まとめ・創造・表現」の場面では、書いた投書を友だちと読み合い、自分と友だちのものの見方や考え方の違いを知る。単元全体を通じて、読み手を説得させる工夫とは、自分の立場を明らかにし、自分の考えが伝わるような文章構成や説得の工夫を考え、判断して表現することであることに気付かせ、今後の自分の行動や考え方の変容、そして他教科や総合的な学習の時間の学びへつないでいけるようにしたい。

## 2 単元の評価規準

|      |  |  |
|------|--|--|
| 読解能力 | メタ認知力                                  | ・読み手へ意識を向け、構成や展開を考え、表記に気を付けて書くことを通して自分自身の成長に気付いている。  |
| 国語科  | 知識及び技能                                 | <p>思考力、判断力、表現力等</p> <p>読む能力</p> <p>ウ「言語活動」を通じた指導</p>                                       |
|      | ・投書の特徴及び文章の組立てや論の進め方など構成や展開について理解している。 | ・理由づけの仕方や根拠の挙げ方などについて叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えてそれぞれの書き手の説得の工夫を読み取っている。(ア)                       |
|      |  | ・自分の考えを投書としてまとめたいという思いをもち、既存の知識や理解した内容と結び付けながら説得の工夫について読み取ったことや友だちの助言をもとに自分の主張をまとめようとしている。 |

## 3 教科の指導事項との関連

### 第6学年 国語科(C読むこと:A 構造と内容の把握)

| 第1学年及び第2学年                         | 第3学年及び第4学年  | 第5学年及び第6学年                                       | 中学校第1学年  |
|------------------------------------|---|--|--|
| ア 時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を捉えること。 | ア 段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて叙述をもとに捉えること。 | ア 事実と感想、意見などとの関係を叙述をもとに押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること。 | ア 文章の中心的な部分と付加的部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握すること。 |







## 4 指導と評価の計画(国語 全8時間)

| 次   | 時       | 学習活動  | 評価  |   |   | 児童の思考のプロセス<br>(深い学びを実現に向かう児童の姿)  | FU対象児童への<br>手立てや支援   |  |
|-----|---------|---|---|---|---|--|--|--|
|     |         |   | 知   | 思 | 態 |  |  |  |
| 単元前 |         | 課題の設定 (学活)「6年生としての自分を見直そう」、(総合)「未来チャレンジ!四季が丘 2050 プロジェクト~」<br>(道徳の時間)「それじゃ、ダメじゃん」   |   |   |   |  |  |  |
| 第一次 | 1       | <b>課題の設定 (国語科)</b><br>・教材文から投書についての大まかな内容をつかむとともに、本単元での学習内容やつきたい力について話し合う。  | ○   |   |   | ○「読むこと」における自分の学びを振り返り、説得の工夫や読み取る力を身に付けるためには、どのような学びが必要かを考えている。<br>(発言・ノート)<br>★「読むこと」における自分自身の課題を捉えている。<br>(ワークシート)                                      | 投書は作文とは違う。自分の考えを明らかにして、説得力をもたせる工夫を取り入れた文章を書けるようになるために、しっかり読み比べていくぞ!          | ・「ヤングスポット」を提示する。<br>・学習計画をもとにゴールイメージを持たせる。           |
|     | 2       | <b>情報の収集</b><br>・四つの投書を読み、構成を目的とともに理解し、説得の工夫を見つける。  | ○   |   |   | ○それぞれの書き手の意見や主張、その理由や根拠をおさえながら、構成や説得の工夫を捉えている。<br>(発言・ノート)   | 文章構成はどれも同じけど、理由づけや根拠の挙げ方などはそれぞれ違っていてどの投書も説得の工夫が取り入れられているね、                   | ・文章の構成を色分けし視覚的に捉えさせる。<br>・意見や主張に線を引かせ、構成図を活用して考えさせる。 |
|     | 3<br>本時 | <b>整理・分析</b><br>・四つの投書の中で自分が納得するものを選んで理由をまとめ伝え合う。   |   |   | エ | ○理由づけの仕方、根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、効果的な説得の工夫について読み取っている。<br>(発言・タブレット)  | 経験を述べるのが一番説得力があると思っていただけと、理由づけや根拠の挙げ方に相手や目的に応じた説得の工夫があることに気付けたよ。             | ・文章の構成を明記した掲示物を貼っておく。<br>・タブレットに自分の考えを書き、対話につなげる。    |
|     | 4       | <b>まとめ・創造・表現、振り返り</b><br>・読み比べた説得のよさを全体で共有し、他者の読み取りのよさを見つける。  |   |   | エ | ○投書の目的や意図、相手に応じた言葉の選び方を判断したり、言葉が醸し出す味わいを捉えたりしながら読み手を説得するための工夫のよさを読み取っている。<br>(発言・ノート)<br>★本時までの学びを通して、他者の読みととの比較を通じて「読むこと」についての自己の変容に気付いている。<br>(ワークシート) | 納得できる意見や主張は、人それぞれちがう。それはこれまでに経験したことが結び付いている。友だちの考えと自分の考えを比べて読むことでそのことに気付けたよ。 | ・読み比べた説得のよさについて交流したことを思考ツールを活用して整理させる。               |
| 第二次 | 5       | <b>新たな課題の設定・情報の収集</b><br>・中学生の話から、自分の主張について、読み手を説得するための根拠の挙げ方の工夫についてまとめる  |   |   | エ | ○卒業生である中学生の話に関心を持って聞き、自分の立場を明らかにしながら自分の主張を整理している。<br>(発言・ノート)  | 説得の工夫は引用を使おうと思っていたけど構成メモを書くとき、経験したことを書く方が説得力が増すように思えてきたよ。                    | ・構成図を使って自分の考えをまとめさせる。                                |
|     | 6<br>7  | <b>整理・分析</b><br>・文章全体の構成を考えて下書きを書く。<br>・書いた投書を友だちと読み合い、友だちの助言をもとに加筆・推敲する。   |   |   | ○ | ○事実と感想、意見等との関係をおさえ、自分の考えを明確にしながらかまとめている。<br>(発言・投書)  | 投書に書く内容は説得の工夫を取り入れて書くことはもちろん、それを踏まえて自分の意見を書く、つまり、自分はどう考えているかを書くことが大切だね。      | ・構成が分かる色分けしたワークシートを活用して、まとめさせる。                      |
|     | 8       | <b>まとめ・創造・表現、振り返り</b><br>・投書を仕上げ、本単元の学びを振り返る。<br>・投書を読み合い、自分と友だちのものの方や考え方の違いを知る。  |   |   | エ | ○自分の立場を明らかにし、筆者の考えを比較しながら投書を読んでいる。<br>(投書)<br>★本時までの学びを通して、他者の投書との比較を通じて自分自身の成長に気付いている。<br>(投書・ワークシート)   | 文章の構成について理解したことを使って自分の考えをまとめると、始めに書いた文章よりも説得力がアップしたよ。構成に気がつけて書く力が伸びたよ!       | ・T2と対話しながら自分の成長を捉えることができるようにする。                      |
|     |         | <b>目指す児童のゴールイメージ</b>  | 読み手を説得させる工夫とは、自分の立場を明らかにし、自分の考えが伝わるように文章全体の構成を考えながらまとめることだと分かったよ。形だけの文章では何も伝わらない。自分の考えに行動が伴っていること、自分を変えていくことも必要だ。今はSNSが普及して、自分の立場を明らかにすることはとても大切だから、この力を他教科や生活に生かしていきたいな! |   |   |  |  |  |
| 単元後 |         | <b>まとめ・創造・表現</b> (総合的な学習の時間「未来チャレンジ!四季が丘 2050 プロジェクト~、自分の夢を、未来を語ろう!」<br>・四季が丘の「未来のまちづくりプラン」をまとめる。<br>・小学校で学んだことを振り返り、夢を実現するために考えたことをまとめる。 |   |   |   |  |  |  |

## 5 本時の目標

・理由付けの仕方、根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、効果的な説得の工夫について読み取ることができる。【読むこと ア】

## 6 本時の展開

|       | 学習活動（時間）   | <p>◇指導上の留意点 ・予想される児童の反応</p> <p> ◆深い学びを促す教師の手立て</p> <p><b>FU対象児童への教師の手立て</b></p>   | <p>評価規準（評価方法）</p> <p>深い学びを実現できた児童の姿</p>                                    |
|-------|--|--|--|
| 課題の設定 | 1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確認する。（3分）                           | <p>◇前時までの既習事項である説得の工夫について確認し、本時のめあてを共有させる。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">⑤選んだ投書の説得の工夫を読み取ることができる。</span></p> <p>◆前時までに児童が説得の工夫として挙げた「確かさ」、「リアルさ」、「共感」の3つの視点をもとに読み取らせる。</p> <p> <b>学習計画表（A5サイズ）で本時の学習内容を確認させる。</b></p>   |  |
| 情報の収集 | 2 選んだ理由とそのよさについて考えたことをタブレットに書き込み、そのメモをもとにノートにまとめる。（7分） | <p>◇四つの投書の中から、最も納得できるものを選び、タブレットで写真に撮って選んだ理由を画面上に明らかにさせる。</p> <p>◆どの投書を選んだか、電子黒板のアンケート機能を使って確認し、全体の傾向をつかむ。</p> <p>◇それぞれの工夫は、なぜ読み手を説得することができるのかを考えさせる。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">・私が選んだのは①です。理由は、実際に書き手が経験したことをもとに根拠を述べていて、すごくリアルだと感じるからです。</span></p> <p> <b>自分の考えを書く時の文型を示す。どの段落に理由が示されているのかを前時の学びをもとに想起させる。</b></p>   | <p>【読】</p> <p>・構成や理由づけの仕方、根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの説得の工夫を読み取っている。（発言・ノート）</p> |
| 整理・分析 | 3 グループで交流する。（12分）                                      | <p>◆自分や友達が選んだ説得の工夫を共有させる。</p> <p>◆「確かさ」、「リアルさ」、「共感」という視点をもとに、表に◎○△で整理させる。</p> <p>◆広がりや深まりを生む交流にするために整理した表をもとに説得の工夫を分析させる。</p> <p> <b>友だちの発表を参考に、自分の考えを整理できるよう表に着目させる。</b></p>   | <p>【読】</p> <p>・構成や理由づけの仕方、根拠の挙げ方に気をつけて読み比べ、それぞれの説得の工夫を読み取っている。（発言・ノート）</p> |
| まとめ   | 4 全体で交流する。（13分）  | <p>◇グループ協議で出てきたそれぞれの説得の工夫のよさについて全体で共有させる。</p> <p> <b>教材文と発表内容を記号や線を用いてつなげながら板書し、視覚的に分かりやすく捉えさせる。</b></p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">                 ◎説得の工夫 それぞれのよさ<br/>                 「経験したこと」・「見たり聞いたり」・・・リアルさ<br/>                 「具体的な数値」・・・確かさ、リアルさ、共感<br/>                 「有名な人の言葉」・・・共感             </span></p> <p>◆文章に説得力をもたせるには、読み手を想定しておくことが大切であることに気付かせる。</p>   |  |
| 振り返り  | 5 自己の学びを振り返る。（10分）                                     | <p>◇自分や友だち、教材文との対話を通して振り返りを書かせる。</p> <p> <b>振り返りの視点を提示する。</b></p> <p>◆本時の学びを通して自分の考えの広がりや深まりを実感させることができるよう、自分の考えがどのように変わったのかを順序立てて確認させたり、参考になった友達の考えを説明させたりする。</p> <p><span style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;">                 ・ぼくもサッカーをしています。試合の前になんげりすぎてひざを痛めて、病院に行った時に先生から「やりすぎはよくない。」と言われました。だから、①の投書の工夫はすごく説得力があると思いました。でも、グループで話合った時に、スポーツをしていない○○さんは、①はあまり説得力はないと話していました。読む相手によってなるほどと思える説得の工夫はちがうことがわかっておもしろいなと思いました。             </span></p> |  |

# 7 板書計画

六月十八日 (火) 新聞の投書を読み比べよう

めあて

選んだ投書の説得の工夫を読み取る  
ことができる。

説得の工夫

文章構成

自分の経験

- ・部活動が  
できなかったこと

①

見たり聞いたり

- ・テレビで  
見たこと

②

資料・数値

- ・アンケート  
数値

③

有名な言葉

- ・有名な言葉

④

まとめ

四つの説得の工夫 それぞれのよさ

経験したこと  
見たり聞いたり  
具体的な数値  
有名な人の言葉

↓ リアルさ  
↓ 確かさ、リアルさ、共感  
↓ 共感

ふり返り